

11月号

NOVEMBER 2025

MJIA

MAGAZINE



2025年11月21日 会員交流会（新宿中村屋 レストラン グランナ）

公益財団法人日印協会

住 所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階
電 話 番 号： 03-6272-4408 <https://www.japan-india.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

| A STAR ALLIANCE MEMBER

www.ana.co.jp

日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

目次

「自分の力で考える」—第29期日本インド学生会議を振り返って 第29期日本インド学生会議副実行委員長 小谷菜奈子	4
日印協会「会員交流会」 The Japan-India Association Members' Gathering	10
インド紹介 ラージャスタン州	12
インド映画公開情報	14
書籍紹介：『NAMASTE とらわれない自分のつくり方』 著者：エクトル・ガルシア、フランセスク・ミラージエス	15
日印協会からのご案内	16
編集後記	18
法人会員一覧	19

インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配達承ります）



シタールのインドカレー
変わらぬ人気のカレー
をそのままのお味で、
ご家庭へ。
社長の増田泰觀は学生時
代、当時九段にあった印
度料理アジャンタでアル
バイトとして入店し、大
学卒業後はコックとして
修業を積み、1981年に千
葉市で印度料理シタール
を創業いたしました。



アルフォンソマンゴードリンク
アルフォンソマンゴー
といえばシタール。自
信ある逸品です。
社長の増田泰觀が情熱を
傾けるアルフォンソマン
ゴーから作る無添加ドリ
ンクです。
毎年インドの農園へ行き
品質を確認して原料とな
るマンゴーを輸入してい
ます。



野生黒蜂蜜 ハンティングハニ
インド メルガートの
自然保護区でハニーハ
ンターによって採集さ
れる貴重な蜂蜜です。



おうちでつくれるチャイセット
インドのバザールで飲
む味そのまま！おうち
で簡単チャイキット。
マサラとレシピ付。

味と香りの調べを奏でる since1981
印度料理シタール
千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16
mail : info@sitar.co.jp

■上記以外の商品も多数取り揃えております。

■個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは **TEL 0120-166-358** <http://www.e-sitar.jp/>

当協会が30年ほど前から後援しております日本インド学生会議（JISC）より、この度インドで開催された、第29期日印学生合同会議の熱のこもった活動報告が寄せられました。

長きにわたり、国境を越えて学びを深めた彼らの経験を、ぜひこの機会にご覧ください。

そして引続き、次世代の日印交流を担う学生諸君の活動に声援をいただくとともに、皆様の周りの若き友人や知人にも本寄稿文を共有していただきますようお願い申し上げます。

「自分の力で考える」— 第29期日本インド学生会議を振り返って

第29期日本インド学生会議副実行委員長 小谷菜奈子

■ 旅のはじまり

8月6日。デリー行きの飛行機の中で、1989年公開のアメリカ合衆国の映画『いまを生きる』という作品を観た。名門全寮制学校の型破りな教師と生徒たちの交流と成長を描いたヒューマンドラマだ。作中、その教師が「自分の力で考えることを学ぶのだ」と生徒たちに語りかけるシーンがある。

いま振り返ると、その言葉が、私のインド行きの原点と重なっていたように思う。与えられた機会を経験で終わらせず、自分の目で見て、考えて、何かを持ち帰ろうと心に決めた瞬間だ。

8月6日から8月27日まで、私は第29期日本インド学生会議の副委員長として、10名の日本人メンバーとともに初めてインドの地に降り立った。今回、日印協会様から寄稿の機会を頂戴したため、第29期日本インド学生会議としてインドに渡航した3週間のインド現地での活動や成果、今後の課題などを中心に、インド滞在の出来事を振り返っていきたい。

日本インド学生会議（Japan-India Student Conference、通称JISC）は、1996年に日本とインドの学生によって始まった国際交流プログラムである。国家間の外交とは異なり、学生自身がテーマ設定から現地調査、議論、報告書作成までを担う学生団体だ。

第29期のテーマは「いのちを紡ぐ未来～文化と共生の新たな地平～」。大阪・関西万博の理念に触発され、「いのち」を軸に据えて、生命の尊厳、持続可能性、文化的共生を日印双方の視点から多角的に問い合わせた。私たち第29期JISCは、4月からオンラインで準備を重ね、8月にコルカタ・チェンナイ・デリーの3都市を巡った。

（行きの飛行機で見た映画『いまを生きる、原題: Dead Poets Society』
機内アナウンスにより一時中断されている際の1枚。）



■ コルカタ——宗教と教育が息づく街

インドの空気は、湿り気と熱気と音が一気に押し寄せてくる。空港を出た瞬間、クラクションが響き渡り、野良犬が気ままに散歩し、人々の大きな話し声が聞こえる。「ああ、本当にインドに来たんだな」と実感した。

最初の訪問地・コルカタでは、本会議テーマに沿って細分化された小グループ（以下、分科会）に分かれ、インド現地の学生とともに議論をすることがメインの活動だ。ほかにも、宗教寺院の訪問や在コルカタ日本国総領事館への表敬訪問、教育と文化の現場を中心に活動した。

なかでも印象に残っているのが、ヒンドゥー教のDakshineshwar寺院の訪問だ。現地学生メンバーと混合グループを組み、参拝を共にした。赤いハイビスカスの花を供え、祈る人々の姿。香の煙がゆらめく中で、彼らが教えや神々の物語を教えてくれた。早朝にもかかわらず境内は参拝者であふれ、裏手のガンジス河では人々が沐浴をしていた。JISCメンバーも、足を川に浸し、インド人メンバーと皆で記念撮影をした。はじめは怖い気持ちもあったが、インド人メンバーに手を引かれ、一緒に川に入った経験は私の人生に深く刻まれた。

ホームステイも経験した。私はもう一人の日本人メンバーと、6人家族の家庭にお世話になった。食卓には毎食、手作りのスパイス料理が並び、食後には家族で会話が弾む。伝統的な衣装を着せてもらったり、近所を案内してもらって一緒にラッシーを飲んだりと休日も楽しんだ。お土産として渡した「蒸氣でホットアイマスク」は大好評で、後日「日本に行ったら大量に買いたい」とメッセージをもらえるほどだった。

また、ひとつ小話だが、コルカタ滞在中はインド人メンバーの案内の元、公共交通での移動がメインだった。ある日バスでたまたま隣になったインド人女性とひょんなことから会話が弾み、仲良くなつた証にと思い、日本から持ってきたキャンディーを手渡した。彼女は、見ず知らずの日本人が渡したキャンディーをその場で食べて「おいしい」と笑ってくれた。そして直後、包み紙を窓から捨てた（！）。彼女の行動に心底驚き、一瞬会話を中断しそうになるほどの衝撃だったが、肝心の彼女はそのまま当たり前のように会話を続いている。清潔や公共性の基準も社会背景で変わる。良し悪しの比較より、背景を理解する必要があると感じたシーンだった。



(ガンジス河にて集合写真)

■ チェンナイ——多様性の中で経済を学ぶ

次に訪れたのは南インドの港町・チェンナイ。南インドらしい湿った海風と活気ある街並みが印象的だった。ここでは、おもにABK AOTS DOSOKAIという団体に併設されている日本語学校の生徒の皆さん・先生方との交流がメインだった。JETROや日本国総領事館、現地大学への訪問、そしてホームビジットなども体験させていただき、多角的な学びの機会を得た。

JETROチェンナイ事務所では、「インド概況とタミル・ナドゥ州のビジネス環境」というテーマで講演を受けた。担当者の言葉で特に印象に残ったのは、「インドはEUのような多様な集合体だ」という一言だ。宗教・言語・カースト・産業構造など、地域によって社会の形がまったく異なる。国家としての統一性と、州ごとの独自性が絶妙に共存するこの国を前に、国際協力やビジネスの文脈で“単一の正解”を持ち込むことの危うさを強く感じた。多様性を理解することからしか、この国を理解する道は始まらないのかもしれない。

また、在チェンナイ日本国総領事館の訪問ではタミル・ナドゥ州が製造業を中心に急速に発展している現状や、地方格差の存在にも触れた。どの訪問先でも、「発展」と「伝統」、「統一」と「多様性」といった相反する価値が共に息づいていることを実感した。国家を一枚岩としてではなく、無数の地域社会の集合体として見る視点を得たことは、今後国際協力や社会デザインに関わる上での大きな学びとなった。

(RMK大学での交流、学生たちにシールをプレゼント)



■ デリー——加速する社会の中で考えたこと

最終訪問地は、インドの首都デリー。私たちが宿泊先についたのは現地時間の深夜12時頃。度重なる移動と空腹で皆へトへトだったが、デリバリーレストランで届いた出来立てのインド料理、マギーとモモでお腹が満たされ、各自が部屋に戻っていく。デリーでは、日本国大使館やIITデリーをはじめ、官民の機関を訪問させていただき、日印関係の最前線に触れた。

最初に訪れたのは、グルガオンにあるNRIインディア（野村総合研究所インド法人）。グルガオン一帯は、それまでに訪れたどの都市よりも発展しており、高層ビル群の迫力に圧倒された。講師を務めたコンサルタントの方々からは、BtoC市場の変化やエネルギー分野におけるインドの成長戦略について学んだ。

近年、インド発の若手・新興ブランドの動きについても紹介があった。背景には、スマートフォンの普及や核家族化、若年層の価値観の変化がある。SNSを通じて世界中のトレンドにアクセスできるようになり、「自分のライフスタイルを見せたい」という欲求が新しい市場を生み出しているという話が印象的だった。それは、私が“途上国”としてイメージしていたインドとはまるで異なる姿だ。消費を牽引するのは“若者”。そしてその背後には、情報格差の縮小と自己表現への強い欲求がある。

インド外務省で日本顧問を務められたアショク・チャウラ先生との勉強会も心に残っている。チャウラ先生曰く、「インドと日本はお互いに好意を持っているが、それ違うのは“次元”が違うからだ」という。日本人は確実性を重んじ、準備が整うまで「はい」と言わない。一方でインド人は、柔軟に、時に即興的に動く。その背景には、時間感覚や仕事文化、価値観の違いがあるという。

異なる文化を理解するには、相手を「正す」ことではなく、「なぜそうなるのか」を知ることが出発点になる。先生の「まずはイライラしないこと。合わないところより、合うところを結べばよい」という言葉が印象的だった。

(訪問先へ向かうJISCメンバー)



■ 分科会——価値観の違いと向き合う

ここからは、本会議の根幹である分科会について書きたい。本会議では、学生が4つの分科会（エンターテイメント／教育／フード／モビリティ）に分かれ、現地学生と共同で議論を行った。

オンラインで何度も事前打ち合わせを重ね、ある程度議論の設計図を描いてから渡航したが、現地では思うようにいかないことが多かった。限られた時間の中で高いレベルの議論をしようとするほど、学生たちは「最終発表を仕上げること」に意識が傾きがちになっていく。その中で学んだのは、「価値観の違いは壁ではなく、問い合わせを深める糸口になる」ということだ。話が噛み合わないときほど、相手の背景や思考の根をたどると、見えていなかった前提が明らかになり、理解が進んだ。



(分科会終了後、会場から出たときに皆で見た夕焼け)

私が所属したのは教育分科会。

テーマは「教育はどのように個人の価値観を形づくるか」であった。議論では、ジェンダー、言語、道徳教育、教育格差といった切り口から日印の教育を比較した。インドでは女子教育の機会格差が課題として挙げられ、日本では地方の教育格差が議論に上がった。宗教を基盤にした道徳教育や、多言語社会における言語選択の重みも印象に残った。

そして何より、「教育は知識を伝えるだけではなく、人の価値観や社会意識を育てる土台である」ということを改めて実感した。

■ 課題と今後の展望——“共生”を続けるということ

今回の会議を通して痛感したのは、「文化共生」や「持続可能性」といった理念を、現実社会の中でどう具体化するかという難しさだ。議論やフィールドワークを重ねる中で、理想と実践の間には想像以上に大きな隔たりがあると感じた。それでも、学生という立場だからこそ、制度や立場に縛られずに未来を描く自由がある。私たちが担うべきは、この「自由な発想」と「社会の現実」をつなぐ翻訳者のような存在になることだ。

今後の課題としては、会議で得た学びをその場限りにせず、継続的な対話や行動につなげていくこと。分科会で生まれたアクションプランや問題意識を次期メンバーや次なる挑戦につなげ、小さくとも実践の輪を広げていけたらと思う。オンラインの交流や他団体とのコラボレーションといった新しい形を模索しながら、“対話が続していく仕組み”を育てていきたい。

この経験を通して改めて思うのは、学びを“越境的な経験”で終わらせず、“日常の中の共生”へと繋げていくことの大切さだ。異なる文化や価値観に触れたあの日々のように、これからも他者の声に耳を傾け、自分の中の「当たり前」を問い合わせたい。そして、その姿勢を次期30期のメンバーへも受け渡していきたい。

■ 終わりに——“問い合わせ”を持ち帰る

「自分の力で考えることを学ぶのだ」

やはり、インド行きの機内で見た映画のこの言葉が思い出される。作中では、「詩を数値で評価する」ことを勧める教科書を前に、教師キーティングが「詩はパイプ工事とは違う」「自分の力で考えることを学ぶのだ」と、生徒たちに教科書のページを破らせる。論理や指標よりも、自分の感情や思考を信じることの大切さを伝える場面だ。

この映画は40年近く前の作品だが、そのメッセージは、AIやSNSが溢れる2025年の私たちにも通じる。情報や正解が簡単に手に入る今だからこそ、“自分の頭で考える力”がより一層問われているのだと思う。

その意味を本当の意味で理解できたのは、インドの地で數えきれない“問い合わせ”に出会ったからだ。文化や宗教、価値観の違いに触れるたび、正解よりも“問い合わせ”が増えていく。けれど、その問い合わせが、次の行動の原動力になる。

29期のメンバーはそれぞれの道に戻ったが、インドでの経験や交わした対話は、今も私たちの中で生き続けるだろう。文化や立場を越えて築かれた友情が、今後の人生の糧となり、またいつかどこかで再び交わることを願ってやまない。そして、来年30期という節目を迎える日本インド学生会議が、今後多くの学生の挑戦と出会いを生み出し、日印両国の架け橋として発展していくことを心より願っている。

最後に、本プログラムを支えてくださったすべての方々に、この場を借りて、心より感謝申し上げたい。多くの方々の支えがあったからこそ、私たちは無事に3週間の旅を終え、日本へ帰ってくることができた。

この3週間の学びと出会いは、私たち一人ひとりの人生に深く刻まれた。ここで紡がれた“いのちの対話”が、未来の共生社会をつくる小さな一歩となることを願っている。



(29期の大切な仲間たち、タージマハルにて)



言語とテクノロジーを、日本とインドで

▶ 翻訳 / ローカライズ

英語や日本語とインドの各言語間双方向の翻訳 / 通訳
80言語以上に対応する
翻訳・ローカライズサービス



▶ ソフトウェア開発

▶ IT サポート業務および人材コンサルティング
▶ インド現地における各種印刷物制作
▶ インド現地における市場調査など



フィデル・テクノロジーズ株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-3 九段プラザビル 7 階
電話 : 03-6261-4910 (翻訳・印刷・現地調査)
電話 : 03-6261-3309 (開発・IT サポート)
Eメール : info@fideltech.com Web : fideltech.jp



Fidel Softech Ltd.

Address: 2nd Floor, West Wing, Marisoft IT Park 3,
Kalyani Nagar, Pune 411014 (MS). India
Tel: +91-20-49007800
Email: sales@fidelsofttech.com Web: fidelsofttech.com

日印協会「会員交流会」 The Japan-India Association Members' Gathering

日印協会は創立122年を翌月に控える中、2025年11月21日（金）新宿中村屋 グランナにて、恒例の「会員交流会」を開催致しました。交流会は、毎年秋のディワリのあとに開催しております。

本会は、インド独立の志士であるラス・ビハーリ・ボース（通称「中村屋のボース」）ゆかりの地である新宿 中村屋にて開催されました。ボースは、大正時代に英国に追われ日本に亡命し、当主の娘さんと結婚されたという、両国の歴史において非常に意義深い場所です。

当日は、法人、個人会員をはじめ、総勢約75名が集いました。遠方からは日本出張中のデリーから、国内では青森からも複数人が参加され、学生会員約10名参加するなど、幅広い層が交流を深めました。

開会にあたり、今回は欠席された齋木理事長に代わり、西本副理事長より開会の挨拶が行われ、交流会の重要性・意義が披露されました。来賓として、駐日インド首席公使のMadhu Sudan Ravindran閣下、外務省国際協力局の佐藤仁美室長、南部アジア部の皆様が招かれました。

日印協会を代表し、会長である菅義偉元総理より挨拶を頂戴しました。菅会長は、8月のモディ首相来日の際に協会副会長4名とともに面会したことに触れ、その場でビジネス環境の改善とともに「人的交流の促進」を要請し、それが日印協会にとっても大切なテーマであると強調しました。また、日本のインバウンドが前年比約18%の伸びで推移し、今年の旅行者数3500万人が視野に入る過去最高の勢いである一方、インドからの旅行者数はその倍の35%という伸びを見せており、10月までで29.4万人に達したという具体的な数字を挙げました。



そのうえで、インドの人口等の潜在力を鑑みると「未だ途上」であり、今後も人との交流を通じた日印関係の発展を切に願うとの激励の言葉を述べられました。さらに、モディ首相から「125年の時にはいっしょにお祝いしよう！」との言葉をいただいたというエピソードも披露されました。

続いて、インド大使館のMadhu首席公使からもご挨拶を頂きました。首席は、インドと日本が深い信頼、共有する民主的価値観、そして自由で開かれた包摂的なルールに基づくインド太平洋のビジョンに基づいて関係を築いていることを指摘。モディ首相の8月の訪日は、両国関係における新たな「黄金の章」の幕を開いたとし、今後10年間にわたり**10兆円**の対印投資目標を含む経済パートナーシップ、経済安全保障、技術・イノベーション、人的交流など、8つの重点分野が示された「共同ビジョン」について説明されました。

特に、まさに今朝、日印SME（中小企業）フォーラムを立ち上げたことを報告され、首相訪問により生まれた勢いが維持され、さらに拡大していると強調されました。また、日印協会の役割が、両国だけでなく、地域全体、さらにはその先の国々にも平和・安定・繁栄をもたらすこの広範なビジョンを実現するうえで極めて重要であると期待を寄せられました。

更に、会場である中村屋の代表取締役島田社長から中村屋の由来を含んだ歓迎のスピーチをいただきました。

乾杯のご発声は、元駐印度大使で、現在日印協会の八木理事が行いました。中村屋さんの心のこもった料理、特に締めの本格純印度カリーを堪能しながら皆様終始ご一緒にご歓談になり、交流を深めました。

ご多忙の中、遠方からお越しくださった方々を含め、ご参加された皆様全員に感謝申し上げます。

日印協会の活動強化と日印関係のさらなる発展に向け、皆様のお力添えをよろしくお願ひいたします。



ラージャスタン州

概要

- * 州都：ジャイプル
- * 人口：6,855万人（2011年国勢調査）
8,190万人（2024年推定）
- * 面積：34万2239km²（全国土の約1割）
(県(District)：41)
- * 識字率：67.1%（男性80.5%、女性52.7%）
- * 宗教別人口比率：ヒンドゥー教(88.5%)、
イスラム教(9.1%)、シク教(1.3%)
- * 主要言語：ヒンディー語（州公用語、27.3%）
ラージャスターニー語（36.9%）
マルワリー語（9%）等
(2011年国勢調査に基づく)



政治

(1) 州政府

* 州知事：ハリバウ・キサンラオ・バガデ (Haribhau Kisanrao Bagade) (2024年7月～)

* 州首相：バジアン・ラール・シャルマ (Bhajan Lal Sharma) (BJP) (2023年12月～)

(2) 州議会：一院制（定員：200、2028年 月任期満了）

* 与党：インド人民党 (BJP) 115議席

* 野党：コングレス党 (INC) 70議席

その他 15議席

(3) 概況

1980年代以降、INCとBJPの2大政党による対抗関係が続き、州議会選挙毎に両党間での勝敗が異なり政権交代が行われてきた。2003年～2008年及び2013年～2018年はBJPのヴァスンダラ・ラジエが州首相となり、2008年～2013年及び2018年～2023年はINCのアショーク・ゲロットが州首相を務めた。2023年選挙では、BJPが115議席を獲得し、バジアン・ラール・シャルマを州首相とするBJP政権を樹立。2024年連邦下院選挙では、ラージャスタン州割当25議席中、BJPが14議席、INCが8議席を獲得している（その他3議席）。

経済・産業

(1) 主要指標

- * 名目州内総生産(G S D P)：17兆434億ルピー（2024年度）
- * 1人当たり所得（実質G S D P計算）：9万6,638ルピー（2024年度）
(名目G S D P計算)：18万5,053ルピー
- * 実質G S D P成長率：7.8%（名目G S D P成長率：12%）（2024年度）
- * 州内総付加価値（G V A）構成比：
第一次産業 27%（27.3%）
第二次産業 27%（24.2%）
第三次産業 46%（48.5%）

(2) 概況

タール砂漠の広がる北西部では牧畜（ラクダ、山羊、羊）、湿潤な丘陵地帯の広がる南東部では小麦、雑穀、豆類、綿等の生産を中心とする農業を主たる産業とし、歴史的に地域毎に幾多もの城塞都市が栄えたことから手工芸産業や観光業も発展してきた。近年では、東部のニムラナやタプカラに広大な工業団地が整備され、製造業を中心とする産業集積も進んでいる。また、太陽光・風力発電への投資も進んでいる。

2024年12月に開催された「ラジング・ラージャスタン」グローバル投資サミットでは、総額約35兆ルピーに上る投資意図表明が行われたとされる。

日本との関係

(1) 進出日系企業：51社、177拠点（2024年10月現在）

ラージャスタン州東部・ニューデリー中心部より南西約120kmに位置するニムラナ日本企業専用工業団地（総面積1,161エーカー、うち、日本企業専用596エーカー）には、ダイキン、ニデック、豊田合成、ミクニ、日鉄鋼管、東海理化、日立アステモ、ユニチャーム、大同工業等日系企業57社拠点が進出。同工業団地から約10km離れた地にギロット工業団地（597エーカー、日本企業専用256エーカー）を開発済み、入居募集中。

(2) 2024年9月、シャルマ州首相訪日に際し、東京、大阪で投資セミナーが開催され、ラージャスタン州への日本企業進出、投資が呼び掛けられた。

その他

(1) 8世紀から12世紀にかけてラージポート族の諸王朝が興亡し、ジャイプル（ピンクの都市）、ウダイプル（白の都市）、ジョードプル（青の都市）、ジャイサルメール（砂漠、黄金の都市）など州内各地に城塞や宮殿を中心とした特徴ある都市が築かれており、ラージャスタンの丘陵城塞群（ジャイプル近郊のアンベール城、チットールガル城等）及びジャイプルにあるジャンタル・マンタル（19世紀前半に建設された天文台）がユネスコ世界遺産に登録され、観光客を集めている。

(2) タール砂漠の広がる西部のポカラン（ジョードプルとジャイサルメールの中間付近）で、1974年及び1998年に地下核爆発実験が行われた。

<インド映画公開情報>



バーフバリ エピック4K 大ヒット作品の再編集・4Kリマスター版

マヒシュマティ王国では王位継承を巡る争いが勃発し、国母シヴァガミは命懸けで赤子を逃した。子どもは村人に救われ、シヴドゥと名付けられ育つ。25年後、女戦士アヴァンティカに出会ったシヴドゥは、彼女の一族が戦うマヒシュマティ王国に乗り込み、自身が王国の王子であることを知る。数奇な運命に導かれた伝説の戦士バーフバリの三代にわたる壮絶な愛と復讐を描き、世界中で大ヒットした『バーフバリ 伝説誕生』(2015年)、『バーフバリ 王の凱旋』(2017年)。インドでの公開から10年となるタイミングで、S・S・ラージャマウリ監督自ら未公開シーンを加えて再編集した。

監督・脚本：S・S・ラージャマウリ

出演：プラバース、ラナー・ダッグバーイ、アヌシュカ・シェッティ、サティヤラージほか

原題：Baahubali: The Epic

2025年／インド／テルグ語／225分／PG12 配給：ツイン

©ARKA MEDIAWORKS PROPERTY, ALL RIGHTS RESERVED.

12月12日（金）公開

<https://baahubali-movie.com>

編集：印度映画広報室

<書籍紹介>

『NAMASTE とらわれない自分のつくり方』



著者：エクトル・ガルシア、
フランセスク・ミラージェス
出版社：かんき出版
発売日：2025年11月17日
造本（仕様）：
四六判 ページ数254ページ
定価（本体）：1700円+税

世界的な読者を持つ著者コンビの強みは、その哲学や叡智を誰にでも理解できる平易で実践的な言葉に落とし込む力にあります。

- 具体的なインドのエピソード：旅の体験談や現地の人々との交流を通じて、インドの教えが抽象論ではなく、生き方そのものに深く根ざしていることを実感できます。
- 心を整えるメソッド：瞑想や呼吸法といったインドに受け継がれる知恵が、現代のライフスタイルにどう応用できるか、実践的なヒントとして紹介されています。
- 「Ikigai」との連動性：前作が「生きる目的」を見つける旅だとすれば、本作は、その目的を「邪魔するものを取り除く」旅であり、両書は自己実現のプロセスにおいて相互に補完しあう関係にあると言えます。

本書は、「手放すこと」が人生を貧しくするのではなく、むしろ真に大切な命にフォーカスし、心を豊かにするための最短ルートであることを教えてくれます。

「自分らしい生き方」のヒントを探している人、忙しい日々の中で「心を整える力」を取り戻したい人、そして『Ikigai』を読んで著者の世界観に魅了されたすべての人に、強くお薦めしたい一冊です。本書を手に取れば、きっとあなたの内側から、静かで力強い「NAMASTE」の声が響くことでしょう。

日印協会からのご案内

会員限定「天竺茶話会」

講師の方を招いて、あらかじめ決めたテーマで参加者の方々と話し合うお茶会です。

インド通の方、もっともっとインドについて知りたい方、インドについて詳しくなりたい方、皆様のご参加をお待ちしております。
どうぞお気軽にご参加ください。

《テーマ》 「ガンディーの想いを受け継ぐということ

-ナーラヤン・デサイから学んだもの-

《講 師》 栗原香織 氏（ガンディー研究家）

《日 時》 2025年12月9日（火）14:00-15:30（受付開始13時45分）

《会 場》 公益財団法人日印協会 会議室

東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階

《定 員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。

《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)

《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」

または、電話 TEL: 03-6272-4408

SNS (Instagram) を始めました

主にイベント紹介などを掲載しております。
インスタグラムをされていらっしゃいました
ら是非、フォローお願ひします。



第2回 インド・キャリアカフェ

2025

12.12 金

権田 藍さん（ごんだ あい）



- ◆ 平成15年4月 外務省入省
- ◆ 平成31年3月 在オーストリア日本国大使館 政治経済班長へて
- ◆ 令和3年6月 在インド日本国大使館参事官（経済班総括補佐）
- ◆ 令和5年9月 総合外交政策局総務課政策企画室長
- ◆ 令和7年8月 大臣官房文化交流・海外広報課 課長

Program

第1部 17:00～18:00

講師のトーク
質疑応答
交流会

第2部 18:00～19:30

参加費
日印協会学生会員 無料
非会員 500円

Venue

公益財団法人日印協会 会議室
住所：東京都千代田区麹町1-6
麹町保坂ビル6階

地下鉄半蔵門駅（出口3a）徒歩2分
地下鉄麹町駅（出口1）徒歩7分



公益財団法人 日印協会

お問い合わせ

住所：東京都千代田区麹町 1-6 麹町保坂ビル 6階

TEL : 03-6272-4408

E-mail : partner@japan-india.com

Webサイト : <https://www.japan-india.com/>

ご予約はこちらから

<https://forms.gle/iwrWoaw7AWaVHVAC6>

編集後記

秋も終わりに近づき、紅葉の見頃がピークを迎えるました。先日、駐日インド大使館のある九段下の「靖國神社」にて、黄色く色付いた銀杏を眺めながらお団子を頂きました。花見で団子も風情はありますが、「紅葉で団子」もまた趣深いものがあります。



毎年恒例の「会員交流会」を今年も無事に開催出来まして多くの方にご参加頂けましたこと。心より御礼申し上げます。定員の80人に達する人数で、会員の皆様の高い関心を感じました。

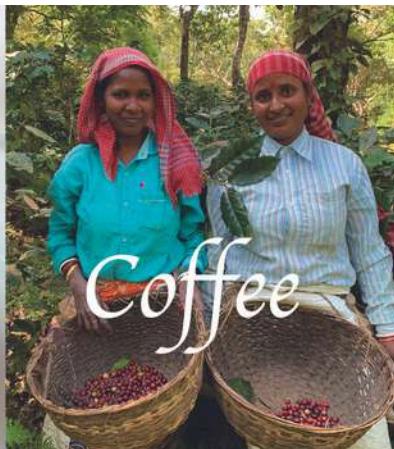
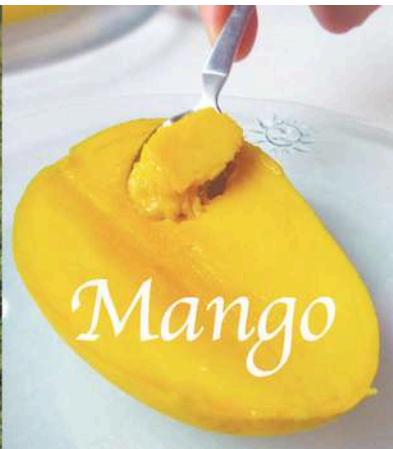
さて、日印協会では個人会員様からのご寄稿をお待ちしております。ご寄稿内容は、「インド旅行記」「美味しいインド料理」など、旅行や趣味の内容、専門的な事。インドに関する内容であればいつでも事務局にご送付下さい。法人会員様には「企業紹介」をお待ちしております。(編集子)

公益財団法人日印協会

住 所 : 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階
電 話 番 号 : 03-6272-4408 ファックス : 03-6272-4135
メ ー ル : partner@japan-india.com
ホーメページ : <https://www.japan-india.com>
MJIA(Monthly Japan-India Association)
2025年11月号 (2025年11月26日発行)
発行人：齋木 昭隆 編集人：三谷 礼子

月刊 インド

Organic Tea



インドの「おいしい」「安全」を日本へお届けしつづけ、24年。



有限会社マカイバリジャパン (マカイバリ茶園アジア・日本総代理店)
東京都中野区沼袋4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 makaibari_japan
tea@makaibari.co.jp www.makaibari.co.jp
ISHII TRADING PRIVATE LIMITED (インド会社) india_happyhunter
E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA info@ishii.co.in



<法人会員一覧>

2025年11月21日現在 (50音順)

特別法人会員 72社

株式会社 朝日新聞社
ARMS株式会社
医療法人社団 育健会
株式会社伊藤園
伊藤忠商事株式会社
インド日本商工会
ウェブスタッフ株式会社
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所
エア・ウォーター株式会社
株式会社エイチシーエル・ジャパン
株式会社NTTドコモ
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所
キヤノン株式会社
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社
蔵町工業株式会社
黒崎播磨株式会社
株式会社グローバルヒューマニー・テック
国際縄文学協会
国際スポーツ振興協会
公益財団法人 国際文化会館
小島国際法律事務所
株式会社小松製作所

サントリーホールディングス株式会社
ジェンパクト株式会社
ジャパンペガサスツアース株式会社
株式会社シンリョー
スズキ株式会社
住友商事株式会社
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
世界開発協力機構
世界芸術文化振興協会
全日本空輸株式会社
綜合警備保障株式会社
双日株式会社
第一三共株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社大和証券グループ本社
千代田化工建設株式会社
ティー・アイ・シー協同組合
株式会社ディー・エヌ・エー
株式会社TTJ・たちばな出版
一般財団法人東京芸術財団
株式会社東芝
株式会社東横イン
戸田建設株式会社
豊田通商株式会社

鳥飼総合法律事務所
株式会社日新
日本航空株式会社
株式会社日本視聴覚社
日本製鉄株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社菱法律・経済・政治研究所
株式会社日立製作所
フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社フジタ
富士フィルム株式会社
株式会社ブレジィール
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
松田綜合法律事務所
丸紅株式会社
株式会社MIXI
株式会社ミスズ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
民間外交推進協会 (FEC)
武蔵野メディカルシステム株式会社
株式会社メタルワン
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社
株式会社ライズ・ジャパン

一般法人会員 145社

株式会社IHI
株式会社IPパートナーズ
株式会社アシックス
有限責任あずさ監査法人
アセアン・ワン株式会社
A'ALDA PTE. LTD.
株式会社 安藤・間
アーチ株式会社
いすゞ自動車株式会社
株式会社インフォブリッジマーケティング＆プロモーションズ
株式会社INPEX
エア・インディア リミテッド
SBSホールディングス株式会社
株式会社エトワール海渡
株式会社NGC
株式会社FTO
エンビジョンエンタープライズソリューションジャパン(株)
沖印友好協会
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル
株式会社オリエンタルランド
オーワイル株式会社
株式会社オープンハウスグループ
加賀電気株式会社
鹿島建設株式会社
カナディア株式会社
亀田製菓株式会社
関西学院大学
株式会社クボタ
株式会社熊谷組
株式会社 啓文社
株式会社 ケー・アンド・エル
鴻池運輸株式会社
株式会社交洋
株式会社講談社
酒井重工業株式会社
株式会社 サカタのタネ
公益財団法人笹川平和財団
株式会社 サンウェル
山九株式会社
三洋化成工業株式会社
G-8 INTERNATIONAL TRADING 株式会社
JFEスチール株式会社
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED
株式会社システムコンサルタント
株式会社静岡ガス
株式会社静岡銀行

有限会社シタール
品川イーストクリニック
有限会社ジーエストラベル
株式会社商船三井
鈴与株式会社
住友重機械工業株式会社
住友電気工業株式会社
住友不動産株式会社
積水ハウス株式会社
セコム医療システム株式会社
ZEUS LAW
生活協同組合コープさっぽろ
医療法人社団創生会 町田病院
SOMPOホールディングス株式会社
大成建設株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社大創産業
株式会社タママイベストメントエデュケーションズ
学校法人都築育英学園
露木興業株式会社
TMI総合法律事務所
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド
株式会社 帝国ホテル
帝人株式会社
株式会社テクノロジーONE
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
株式会社デンソー
TECH JAPAN 株式会社
株式会社TBSホールディングス
株式会社電通
東京海上日動火災保険株式会社
東洋アルミニウム株式会社
東レ株式会社
飛島ホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トピア
内外トランスライン株式会社
株式会社中村屋
株式会社ナベル
株式会社ニトリホールディングス
株式会社ニフコ
西村あさひ法律事務所
日印ビジネス支援協会株式会社
日産自動車株式会社
日精エー・エス・ビー機械株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
税理士法人 日本経営

日本航空電子工業株式会社
公益財団法人日本交通公社
一般財団法人 日本国際協力センター
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本放送協会
株式会社 日本マルコ
日本郵船株式会社
日本電子株式会社
野村不動産株式会社
野村ホールディングス株式会社
株式会社ノリタケカンパニーリミテド
ハイカル ジャパン
株式会社博報堂
株式会社 阪急交通社
阪和興業株式会社
パナソニックホールディングス株式会社
株式会社ピー・アイ・ジャパン
BEYOND NEXT VENTURES株式会社
株式会社BS日本
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED
公益財団法人 フォーリン・プレスセンター
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機株式会社
BAKER TILLY ASA INDIA LLP
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
フォースパレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社ボルテックス
前田建設工業株式会社
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
三菱重工業株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ミツバ
一般社団法人 MEDICAL EXCELLENCE JAPAN
森・濱田松本法律事務所
株式会社ヤクルト本社
株式会社安井建築設計事務所
ヤマハ発動機株式会社
ヤマヤエレクトロニクス株式会社
ユーピーエルジャパン合同会社
豫洲短板産業株式会社
読売新聞東京本社
ラリス株式会社
学校法人立命館
YKK株式会社
医療法人社団和風会

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。

JAL 羽田-デリー線、成田-ベンガルール線
好評運航中!



おかげさまでJALグループは、8年連続で
世界最高ランクの5-STAR AIRLINE*に認定されました。
* 2025年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼